

MSUB 留学報告書

熊本県立大学

文学部英語英米文学科3年

川島桃子

私は、モンタナ州立大学ビリングス校に交換留学生として約9か月間滞在していました。私は中学生の頃から留学をしてみたいという夢があり、英語力の向上、そして女性学などの専門分野を学ぶことを目的としてこの交換留学プログラムに応募しました。ここでは、私の経験を報告していきたいと思います。

<金銭面>

留学にあたってかかった費用を紹介します。渡航費は往復25万～30万円程度、寮は通年、140万円程度です。また、教科書代や娯楽費を含めると、20万から30万円ほど追加でかかりました。私は留学の費用はアルバイトで貯めたお金、両親からのサポート、そして奨学金でまかなっていました。奨学金は日本学生支援機構から月に8万円の返済不要の奨学金をいただいております、この奨学金は私が留学をするにあたってとても大きいものでした。アメリカの物価は今とても高く、円安も深刻であるため買いたい物を全て買うことはできませんでしたが、充実した生活を送ることができたと思います。

<学業>

私は、Fall Semesterでは、比較的難易度の低い授業を中心に選び、「Developmental Writing」「College Reading Strategies」「Intro to Interpersonal Communication」「American History II」の4教科を履修しました。WritingとReadingの授業では、大学レベルの学術的な論文の効率的な読み方、エッセイの構成やルールなどを学び、他の授業にも活用できるスキルを学びました。Communicationの授業では、発表の積極性で成績の一部がつけられ、最初の頃は手を挙げて発表することに躊躇するままでしたが、一日一回でも多く発表しようと予習の段階で授業の発言に備えて準備をし、発言の回数・量を増やすことに努めました。この授業はグループ活動なども多く、英語のコミュニケーション向上のための良い経験



Comm in Small Groups でのアクティビティ

でした。Spring Semesterは、前学期よりも難易度の高い教科に挑戦し、「Communication in Small Groups」「Intro to Public Speaking」「Intro to Intercultural Comm」「Education and Democracy」「Women, Culture & Society」の5教科を履修しました。中でも、女性学の授業は予習と課題に時間がかかり、内容も少し難しかったですが、ジェンダー間の不平等の問題をア

アメリカの視点から学ぶことができ、興味深い意見や知識を得ることができました。

Communication in Small Groups の授業は比較的少人数の授業だったため一人一人の発言の機会が多く、毎回の授業で発言することを目標に頑張りました。また、グループ課題やグループ活動があり、そのなかで発言できなかったり会話について行けないことにはもどかしさややるせなさを感じましたが、教授もクラスメイトもとても親切にしてくださり、質問をすればわかりやすく丁寧にサポートしてくれました。

両学期を通して、予習・課題の量は日本にいるときよりも圧倒的に多く、時間がかかりましたが、英語で教材を理解すること・エッセイを書くことにおいて、日に日に英語力が上がっていくことを実感し、自信に繋がりました。また、授業や課題に対して分からないことがあったときには、教授に授業後に話しに行ったり、office hour を利用して個別に相談に行ったりしてサポートをしていただきました。私は、授業内で見る動画に字幕をつけるようお願いしたり、授業で使用する資料を前もって送ってもらったりしました。自分が英語学習者だということを伝え、サポートを求めることが、授業を理解するために大切なことだったと思います。一日の中の空き時間はほとんどを課題に費やし、休日も一日中勉強するという日もありました。図書館や勉強スペースが整えられており、学業に集中して取り組むことができました。また、academic support center がキャンパス内にあり、チュータリング形式で課題や授業のサポートをしてくれるため、何度か利用しました。課題や授業はハードでしたが、どの授業の内容も興味深いことが多く、教授と生徒の両方が話す形式で進んでいくため、現地の生徒のリアルな意見や経験を聞くことができ、日本ではできない経験だったと思います。



<生活>

留学生は基本的に寮で暮らすことになっており、Single room か Double room を選ぶことになっています。私は両学期とも Double room でルームメイトとともに暮らしていました。



海外の生徒と一緒に暮らすことは正直ストレスに感じることも多くありました。ルームメイトとは時間が経つにつれてだんだん仲を深めていくことができ、プレゼンの練習を一緒にしたり、一緒に夜ご飯を食べたり、家族のことやアメリカのことなどを夜遅くまで話す日もありました。また、寮には他の留学生も暮らしているため、一緒に夜勉強したり、話したりしてい

ました。食事は基本的にカフェテリアで食べるか、キャンパス内にあるスターバックスやサブウェイで購入して食べていました。カフェテリアはバイキング形式になっており、日本料理はほとんど出てきませんが、一日一日メニューが違います。ハンバーガー、アイスクリーム、サラダ等は毎日提供されており、カフェテリアは生徒で賑わっているため、友達と一緒に食事をとることは、勉強から解放された有意義な時間でした。

<放課後・土日の過ごし方・旅行>

私は、放課後はほとんどの時間を予習・課題に使っていました。Spring Semester は特に授業ごとの予習の量が多かったため、授業が終わると図書館に直行し、夜9・10時頃まで勉強する日がほとんどでした。土日にも予習・課題に取り組む日が多く、予定がない休日はキャンパス内の勉強スペースで勉強することがほとんどでした。

勉強以外にも、放課後にはイベントがあれば参加したり、友達と映画を見に行ったりしました。キャンパスでは MSUB のバレーボールやバスケの試合があり、生徒は無料で入場できるためよく観戦に行っていました。また、BFF



バレーボール観戦



ホストファミリーとクリスマス

(The Billings Friendship Family Program)を利用し、ホストファミリーと一緒に放課後や休日を過ごす日も多くありました。ホストファミリーはとても親切にしてくださり、クリスマスと一緒に祝ったり、モンタナの観光地に連れて行ってくれたり、私に様々な経験をさせてくださいました。また、寮に暮らすことの一つのメリットは友達と近くで暮らすことができることだと思います。私は、休日に一つのフロアに集まってみんなで料理

をして映画を見たり、ゲームをしたり、友達の誕生日を祝ったりしました。また、寮の外でも、友達の家で映画を見たり夕飯と一緒に食べたり、一緒に買い物に行ったりと、彼らとの時間は私にとってとても大切なものになりました。



Golden Gate Bridge

また、私は留学期間中に2回旅行に行きました。1回目は Thanksgiving の一週間ほどの授業休止期間に、カリフォルニア州に行きました。私は韓国からの留学生と一緒にいき、サンフランシスコとサンディエゴを訪れました。Golden Gate Bridge や Yosemite National Park、Sea World を訪れとても楽しい一週間でした。2人だけで旅行に行くことには少し不安もありまし

たが、ホテルや食事など新しいことばかりで、トラブルなどを自分たちで解決しなければならないという面では、学ぶことも多い期間でした。2回目は冬休みに彼女のホストファミリーに招かれ、アイオワ州にあるその家族の両親の家を訪れました。この旅行ではアメリカ特有の Road Trip を体験することができ、車でモンタナ州から2日ほどかけてアイオワ州まで連れて行ってくれました。私が行った地域はとても田舎でしたが、家の近くでスキーをしたり、ダウンタウンや教会を訪れたりとても楽しい期間でした。アイオワ州で出会った人々はとても暖かく、異国から来た私たちを家族のように迎えてくれました。二つの旅行を通して、アメリカの州ごとの特色の違いなどを学び、新しい人々と出会うことができた貴重な経験でした。

<国際交流>

MSUB には様々な国からの留学生が在籍しており、International Office が留学生に国立

イエローストーン国立公園への旅行



公園への日帰り旅行や International food fair など
を計画してくれます。他にも様々なイベントがあり、これらのイベントが他の留学生と交流する機会となりました。また、留学生とは授業をともに受けることも多く、英語を第一言語としない者同士、一緒に課題・授業に取り組んだことを今でも覚えています。留学生とはそれぞれの言語のことや文化、流行などを話すことが多く新しいことを学ぶ良い機会にもなりました。それぞれの言語の

壁の部分でコミュニケーションがうまくいかないことは多くありましたが、私のつたない英語にも耳を傾けてくれて英語力向上の部分でも彼らとの時間は私にとって大切なものでした。

<最後に>

私はこの9ヶ月を通して、学問的なことの他にも大切なことを多く学ぶことができました。英語におけるコミュニケーションにおいては語学力だけでは不十分で、相手とコミュニケーションをとる意思や自分から行動、発言する勇気が必要だということを学びました。留学当初、英語を話すことさえ怖かった時と比べて、今は英語をたくさん話し、交流をしたいという意思が芽生えました。しかし、留学期間、自分は成長しているのかということを考える日が続き、不安定な感情の繰り返しでした。その過程の中で自分なりの改善策を探し、挑戦するということを私は心がけました。ですが、全ての目標を達成できなかったのも事実で、それはこれからの自分の課題だと思います。また、現地で出会ったホストファミリー、友達、先生方との繋がりは留学期間だけでなく、帰国後も私の中で大切なものとして残っており、この時期にモンタナ州に留学し彼らと出会えて良かったと心の底から思っています。

この9ヶ月はこれまで以上に自分と向き合う貴重な期間になり、異文化の中に身をおき、新しい文化、人、言語と向き合っていくという経験は、私をオープンマインドにし、より大胆に行動できるようにしてくれました。もちろん、英語力による劣等感を感じたり友達と喧嘩したりと、ネガティブな経験もありましたが、それらの経験も自分の成長に繋がるものだったと思います。また、勉強や生活に疲れたときにモチベーションになったのは、日本にいる人たちの存在でした。家族や友達を始め、留学前にお世話になった先生方、CIEEの方々、そして奨学金を提供してくださっていた方々への感謝とそれに対する責任感が私のモチベーションになり、最後までやり遂げることができました。サポートしてくださった方々、本当にありがとうございました。

この9ヶ月間は、私の宝物です。現地で学んだこと、出会った人々、得た経験を忘れず、これらの学業・生活に活かしさらに成長できるように努力していきたいと思います。少し長くなりましたが、ここまで読んでくださりありがとうございました。